PROFILE

人物白書

vol. 13

氏名　岡崎 司（おかざき つかさ）

所属部署　東京営業所

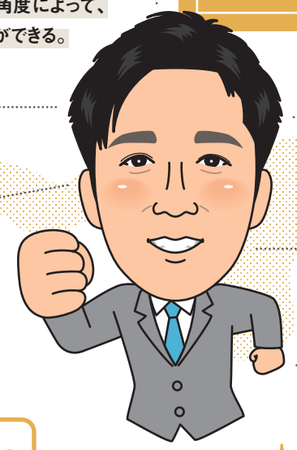
担当エリア　東京、千葉

【座右の銘】
髪の毛が
後退しているのではない。
私が前進しているのである。

全ての物事は、見る角度によって、
色々な見方・考え方ができる。

【出身地】
広島県

【趣味】
草野球



【好きなもの】
甘い物

【嫌いなもの】
鳥類

【長所・ウリ】
綺麗（きれい）好き

Message

お客さまへのメッセージ

「困ったときはJPR」と言っていただけるように
取り組んでいきますので、些細なお困り事でも、
まずはJPRにご相談ください。

お客さまに言われて嬉しかった一言

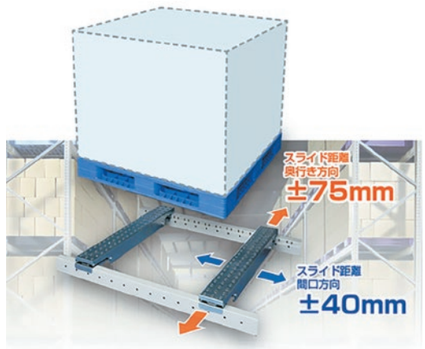
“まずはJPRに連絡してみました”

初めて連絡をいただくお客さまから、「JPRを紹介された」
「岡崎さんを紹介された」と言われた時は、営業マンとしてとてもやりがいを感じます。

FOCUS　商品・サービスインフォメーション

13 減震デッキ［免震&制震デッキ］

パレットの揺れ、1/4



地震時のパレットの動きと予想される危険

対策なし	落下防止装置使用時	減震デッキ使用時
揺れがそのまま伝わる パレットが滑り 落下の危険	揺れがそのまま伝わり 落下防止装置に衝突 落下は防げるが ラックに負担	減震デッキが ラックの揺れを吸収 落下リスク減！ ラックの負担減！

column　減震で守る人、商品、そして資産

「自然災害だから」「想定外」は通用しません。世界で起きる地震の約20%は、日本とその周辺で発生しているとも。空間を有効活用できるラックですが、地震の時にはその強い揺れや、余震の影響も受けてしまいます。「減震デッキ」をラックに載せるだけで、独自のスライド構造と減衰ゴムがパレットに伝わる地震エネルギーを約1/4に抑えます。減震デッキ2本で1パレット分、パレット単位で設置しますので、ラックの上段部や特に落下を防ぎたい箇所へ重点的に導入できます。落下による作業員の被災や商品破損だけでなく、ラック自体の変形リスクも軽減できるのが特徴です。今月は防災月間、大切なものへの震災対策を見直されてみてはいかがでしょうか。

商品の詳細はこちらから

JPR 日本パレットレンタル株式会社

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-3 大手センタービル　URL www.jpr.co.jp　e-mail service@jpr.co.jp

最新情報など詳しくはwebから!
日本パレットレンタル

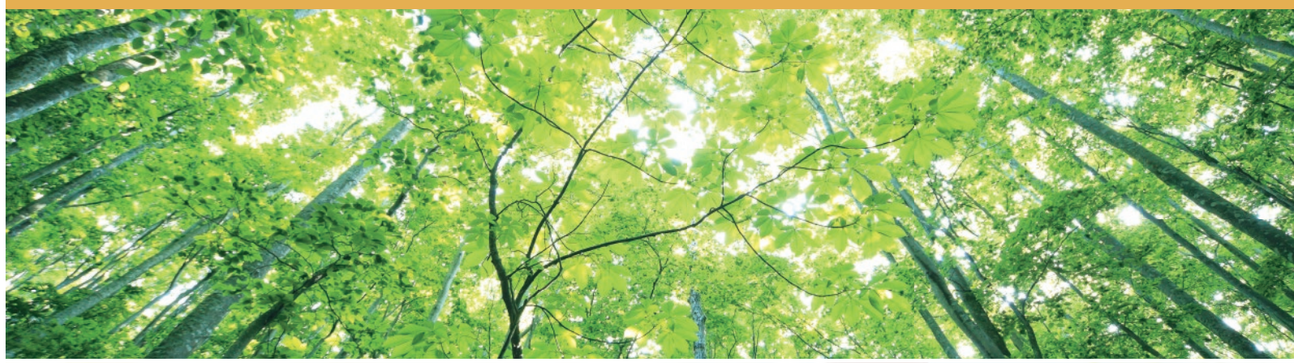
発行/2019年9月10日　編集/日本パレットレンタル株式会社　制作・印刷/DNP 大日本印刷株式会社

お客さまとJPRをつなぐ情報誌

月刊 JPR

VOL. 13
2019. Sep

地球にやさしい3R活動。



地球環境に貢献する3R活動 廃プラスチックに新たな命を

パレットのレンタルサービスは、「Reuse（繰り返しの使用）」と「Reduce（ごみの発生抑制）」を促進する事業でもある。
JPRは事業を通して環境貢献にも取り組んでおり、子会社の秋田エコプラッシュ株式会社（以下AEP）の
「Recycle（再生利用）」事業と合わせて、3Rのシナジー効果を発揮している。
AEPのリサイクル事業とはどのようなものなのか、松井隆伸社長に話を聞いた。

廃プラを再生加工

AEPは秋田県能代市に本社を構えるリサイクル事業を展開する企業だ。秋田県北部エコタウン計画の一つ（石炭灰・廃プラスチック活用二次製品製造事業）として2004年2月にエコタウン事業に承認され誕生した。

社名の「エコプラッシュ」は、エコロジーとプラスチック、アッシュ（灰）からなる造語。現在は、火力発電所から出る石炭灰は取り扱っておらず、主に家庭から出る包装容器等のプラスチックゴミと産業廃棄物の廃プラスチック（PEやPPなど）から再利用可能な素材を選別し、ペレット（写真❶参照）を生産している。そのペレットを成形して、さまざまな再生プラスチック製品を作っている。

写真❶

ペレット
プラスチックなどの工業原料を加工しやすいように3～5mm程度の粒子状にしたもの

廃プラ処理は国際問題

最近、プラスチック製のストローやマドラー、容器がなくなる?!というニュースを耳にする機会が増えた。「海洋プラスチック問題」が大きく取り上げられ、グローバル大手企業各社は使い捨てプラスチックを削減すると発表しており、特に欧州を中心とする海外ではプラスチックフリーへの転換が進んできている。

今年5月には、有害廃棄物の国境を越えた移動を制限する「バーゼル条約」の対象に汚れた廃プラスチックが新たに加わった。日本はこのバーゼル条約の締約国であり、実運用が始まる2021年には原則、廃プラは国内で処理し、自国でリサイクルする必要に迫られる。ちなみに日本の年間廃プラ輸出量は90万トンにもおよぶ。そのため「廃プラを再生し製品化するリサイクル事業を展開するAEPはまさに時代の要求に応えられる企業であり、地球環境に欠かせない産業に携われていると感じている」と松井社長は語る。

リサイクルの工程

AEPでは、どのような工程を経て再生プラスチック製品を製造しているのだろうか。家庭から出るプラスチック製の容器包装廃棄物は各市町村で分別収集・圧縮梱包され指定法人（財団法人日本容器包装リサイクル協会）に情報が集まる。AEPは同協会から再商品化業務を受託する形で、入札しその結果廃棄物を調達する。秋田県、岩手県、福島県等で出た廃棄物を主に、年間の受け入れ量は約5000トンだ。

廃プラスチック類から原料として利用可能なものを分別すると、約半分しか残らない。残りの半分は、また別の企業へ燃料として引き取ってもらっているそうだ。その後、破砕・洗浄工程の後、比重分離・減容工程を経て、先に登場したペレットが製造される。

最終製品に応じて、ペレットに添加剤（たとえば燃えにくくするために難燃剤）を混練し成形する（図❶参照）。

2年で2倍弱の需要増

成形している主な製品は、U字溝（ゆーじこう）（連結式の排水溝）や雨水貯留槽（うすいちょりゅうそう）、パレット、畦畔（あぜ）カバーなど。親会社であるJPRがレンタルパレット事業を展開することもあり、パレットの生産はプラスチックの有効活用を研究する施設としての役割が大きい。

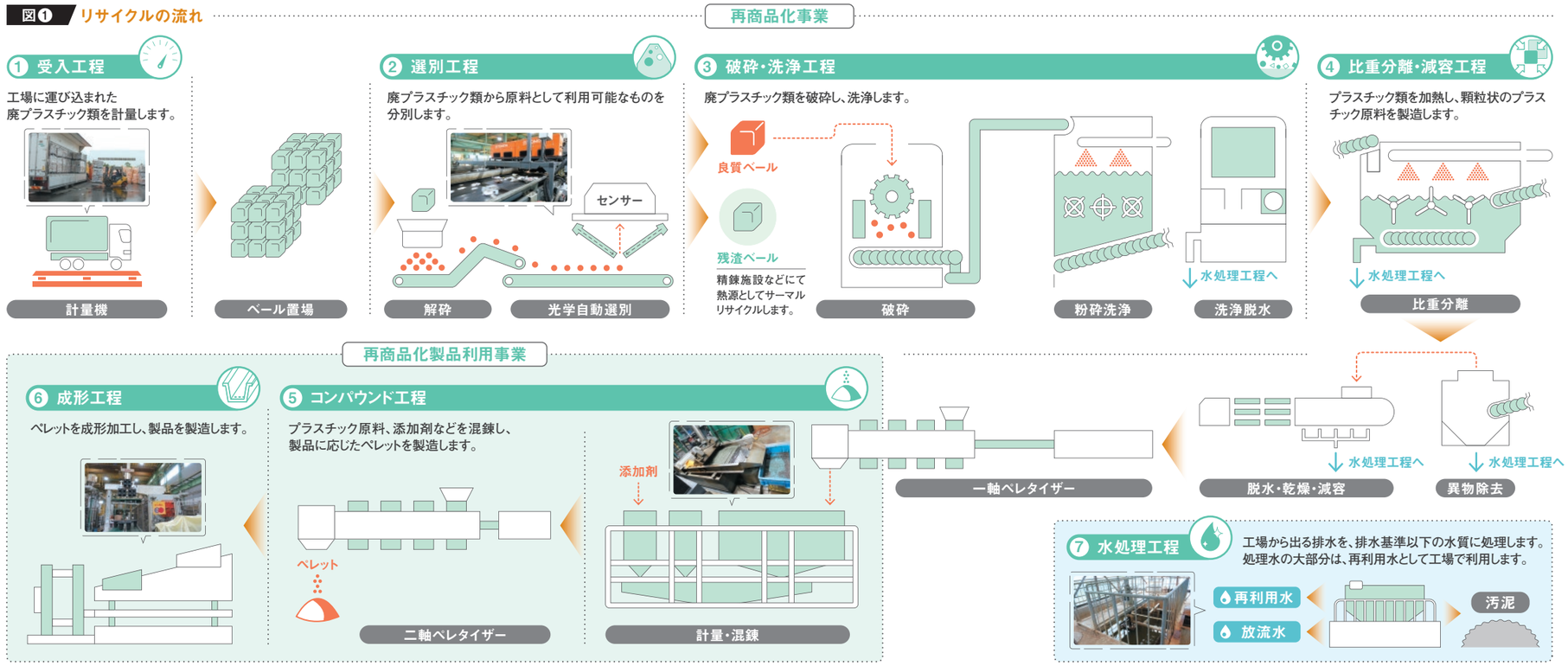
そんな中、需要がここ2年で2倍弱も伸びているのが雨水貯留槽だ（写真❷参照）。地下に埋設し、雨水を一時貯留して河川への負担を軽減する。昨今の大雨やゲリラ豪雨に備える製品であり、商業施設や病院、工場など大きな開発地に使われている。「安価な容器包装リサイクル材を使用している分、材料を多く使うことが可能で、他社製品より強度が優れていることが特徴で多くの引き合いを頂戴している」（松井社長）そう。

廃プラスチックのリサイクルは、今後さらに社会的ニーズが高まる。製品引き合いも高まる中、AEPでは積極的に人員補強もしているという。今後の成長が楽しみだ。

写真❷

雨水貯留槽の成形工程の様子

図❶ リサイクルの流れ



※使用済み製品は原料としてリサイクルします。

会社概要

商号	秋田エコプラッシュ株式会社
所在地	秋田県能代市扇田字扇渕11番地1
資本金	1億円
従業員数	50人
企業理念	リサイクルを通して地球も人も豊かに
品質	ISO14001、ISO9001認証取得